

南アフリカ ソフト柑橘類の輸出が大幅に増加

[EUROFRUIT 2024年4月29日](#)

南アフリカのソフト柑橘類の輸出予測の詳細が初めて明らかになり、今年の総輸出量は約3,800万箱になることが示された。

この数字は、マンダリンの収穫量の大幅な増加を反映している。

品種別ではナドルコット/タンゴで成長が見込まれており、16%の増加によって、合計2,410万箱に達することが見込まれている。

中生～晩生の品種であるリーンリは約250万箱、さらにオッリ200万箱が見込まれる。他のマンダリンは270万箱が見込まれる。

南アフリカ柑橘類生産者協会(CGA)は、数週間前(4月2日)に最初の予測を発表した際、ウンシュウミカン(170万箱)、クレメンタイン(540万箱)、ノバ(450万箱)等、他のソフト柑橘類も増加する(晩生品種については追って発表する)としていた。

レモンは昨年より7%増の3,790万箱、オレンジは4%増の2,560万箱と予測されている。

柑橘類生産者協会のジャスティン・チャドウィックCEOは以前、「バレンシアオレンジの輸出が2年間抑制されていたが、2024年には生産量が改善し、長期的な傾向線に戻る可能性が高い。これにより、出荷量は12%増の5,800万箱になる」と述べていた。

バレンシアオレンジの最終的な輸出量は、加工部門からの需要の影響を受ける可能性がある。

グレープフルーツの輸出シーズンも始まっており、ここでも輸出が増加し、長期的な平均に戻る見込みである。14%の増加予測により、この品目の出荷量は1,670万箱と見込まれる。

執筆者: フレッド・メインチェス

インド カシミール地方の冷蔵業者に問題

[FreshPlaza 2024年4月29日](#)

カシミール渓谷の生産者組織は、冷蔵倉庫・CA貯蔵庫の所有者を抑えたいと考えている

カシミール渓谷果樹生産販売組合は、園芸部門に影響を与えるいくつかの問題について懸念を表明している。バシール・アフマド・バシエール組合長と複数の果樹生産者組織の代表者らとの会合では、副知事による行政介入の必要性が強調された。

主な問題は、冷蔵倉庫やCA貯蔵庫の所有者らによる搾取の疑い等で、彼らは標準以下の包装資材に高い料金を課し、生産者に最低5カ月の貯蔵期間を順守させ、リンゴの販売に対する生産者の支配を制限したとして非難されている。組合は、こうした慣行に対処しなければ、抗議行動を起こす可能性があるという警告をした。

組合はさらに、最近の悪天候による南カシミール地域の果樹園への被害を強調し、作物保険制度の発動を求めた。また、偽造農薬の販売についても懸念が提起され、規制の強化と違反者に対する懲罰的措置が求められた。

輸入りんごの流入は地場産を弱体化させると受け止められており、これがもう一つの懸念事項であった。組合は、国内市場を保護するため、外国産リンゴに制限や高い輸入関税を課すよう政府の介入を求めている。組合は、これらの問題を解決し、カシミール渓谷地域の園芸産産を支援するために、副知事による早急な行動を求めている。

出典: greaterkashmir.com